

# 必修の国語授業について

年	組	番	名前
2010年度			配布日 月 日 曜

## ルール・連絡

教室移動は必ずせやく。始業のチャイム以前に着席。

(1) 手欠を取る際は、既にこなされは欠席、欠課、遅刻。

(2) 遅れた場合は、自分で理由と共に手つかりじよ。申し出ない場合は、欠席となる。

(3) 座席表通りに着席するじよ。

いな。

授業で毎時間用意するものせ、教科書・A4 ファイル・原稿用紙ノート・筆記用具（黒ぐん・赤べん）必敵）**国語辞典**・10分読書の本。

(4) 国語を外語かね上で、言葉の意味を確認するじよは非常に重要なじよです。解らない語がある場合はすぐに調べられるよつは用意をしておれ。

(5) 授業前に用意しておくじよ。使ねた場合せ、忘れ物回数に数えられる。

配布プリントを閉じる A4 ファイルを席に準備するじよ。

(6) じれから、たくせんアコットを配るのじよ、それをなくせないじよのに保管するファイルが必要です。ファイルするじよと自分で自分の学習の積み重ね（知識の集積）じなる。

(7) 定期的にチェックをして評価をわる。

(8) 整理の仕方は卓上じよにおり、その運用内でのアコット番号順とする。（配った田村順、アコット順にならないこと）もあるので注意するじよ。後日指導しまわ。

(9) B4 プリントの折り方は、半分に折りてせひに 4 分の 1 に折る。指定通りでない場合せ再提出となつまわ。（末ページに図解あつ）(10) 配布プリントは、無くした場合、再配布しません。（期末「Pマーをある。）

(11) 欠席、公欠などの場合は、次に出席した時に渡すので忘れずに**自分で取り立てる**じよ。

ど。また、教務室に取りに来るじよ。ただし、もらいに来るのが遅いアコットが無くなつていて渡せなくなる場合は、原稿用紙ノートが必要です。

(12) 金で使い切つたらい同じものを各自購入す

ねか、土曜から購入するじよ。（120円）

(13) 指定ハーネス以外の課題提出は評価しません。

(14) 話をやく聞いて、どのよりに作業をされせよこのか考へるじよ。

(15) 課題の説明で話したじよと回じ事は質問されても知えない。聞も逃した場合は周りの人に聞くじよ。

(16) 文字の形、濃淡、表現の内容によつて伝わつじよ、場合せ再提出とな。

小トストを適宜行つ。

授業とは集団で行われる学習行為である。じよにして隣に仲間がいながらにして学習行為がおこなわれるのか、その効果を考へるじよ。

(17) 始業・終業の礼は厳肅なものである。

(18) 如何授業中に話していく時と話してはいけない時を判断するじよ（教員を読むじよ）。

(19) 私語・脇眠りは学習不参加であり、欠課と同等と見なす。特に教師が全体に説明している時の私語は他人の知識と時間を奪う最も悪質な授業妨害行為である。

(20) 飲食・内職せ完全に学習不参加である。

(21) N の時間に教室に入つていても授業に参加しなければ、欠席と同じ事である。

学習目標を達成するためにはモラルに反しない限り何をしてもかまじません。

クラス全員が同意し、学習意義のあるものだったり、何でもよいじよ。

片桐は基本的に**教務室**にいるわ。

以上のじよで不都合がある場合は、会議の上改訂でもある。

皆さんの表現作品を web 上で公開するじよがあります。そのときはアカウントに配慮して掲載します。そのときはアカウントに配慮して掲載します。

## 総論の種類

「個人課題」……個人じよと合格を田指す。

「グループ課題」……グループで一つ、またはグループ全員が提出して、グループじよとに合格を田指す。

「クラス課題」……クラス全員が提出し、クラス全員が合格するじよにより評価が得られる。

## 四角形圖

学校教育の目的……「人格の完成」  
国語教育の目標……「日本語の機能を理解し、日本語を適切に使えるようになる。日本言語文化の伝承をする。」

自己の中にある専門性（専門教科知識・個性・こだわりなど）と共に通用語を使つことにより、一般化し、他者とのつながりを持つことができる。

「学ぶ」といふことは、自分の身の回りから吸収するところです。  
「勉強する」といふことは、高校生レベルでは、「自分のわからな」といふのを見つけて、それをわかるようにします。」といふことです。

国語は「いとばを学習する教科です。

いとばの機能  
人間が自己や他者、外界物を認識するために必要に迫られて作られたもの。

自己と他者の境界線の一部を取り除き、互いに情報を伝達し、理解できるようになる手段。

### 強化目標

言葉の影響力を意識できるようになる  
伝えることを意識して表現する  
テキストにあたる

「目標」が「目的」にならないように気をつけたとえば、「論理的文章を書けるようになる」が目的で、目標が「この課題を完成させる」であるにもかかわらず、他人の課題を丸写しすることは、「目標」が「目的」へとすり替わっていることです。「何のためにやっているのか?」(目的)を常に意識して学習しないと、活動全てが無駄になります。

立派な社会人になるために  
相手を幸せにする（期待を上回る）  
責任を持つ  
誰に・いつ・何を・どのように聞けばいいのか会得する

### 期待を上回る「上ひごと

「不思議な謎かけ」島田亨  
人生の転機に背中を押してくれる友がいると心強い  
2004年秋、新球団「東北楽天ゴールド・ソイグル  
スの経営に加わってほしい」と誘われたとき、「よい

よハターネイツメント産業に進出ですね」と、挑戦を進めてくれたのがレジックスホールディングスの西山知義会長だった。

年齢が近く、「フルフヤ食事に行つたりする間柄。京都内の焼鳥屋で一杯やりながらの相談だった。その席で不思議な謎かけをされた。「A」かの店で食事をしたりするとき、期待値つてあるじゃないですか。期待値通りならお客様さんは満足するでしょ？が、それ以上のサービスを取ったんじゃないと思います」私が答え、「詰あると、『感動するんです』と教えてくれた。続けて、「期待値をもつと上回る」というなると思います」と笑みを浮かべながら尋ねてきた。頭をひねつてると、「感謝されるんですよ」そして「期待を下回ぬと不満なのは当然ですが、ちゃんと回る」と、お客にいっても、お店にいっても悲劇です」と諭してくれた。

エンターテインメントの本質とは「れなんだと気づかれた。プロ野球もエンターテインメント産業。そのときに教えられた「感動」は、球団経営のキーワードになっている。(しまだ・じおる= 楽天野球団オーナー一)

日本経済新聞2008.3.22「交遊抄欄」

就職試験面接会場の「アドバイス」はアノブがついていないところ

### 責任を持つ「上ひごと

「誰に・いつ・何を・どのようにしてこのかが得す  
る」といふ

就職試験面接会場の「アドバイス」はアノブがついていないところ

### 授業や箇条の心地

名前を呼ばれたらいつも以内に返事をする。（0.2秒を推奨）  
授業開始・終了のあこがれは頭を上げ、寄りかかるずに立つてからおじなへ。  
提出課題におけるノート・プリントへの記入は黒の「じづまな」ペンを使う。  
課題を書く上で字を間違った場合はホワイトを使つたり、二重線で訂正線を書き、修正する。ノートにおける新たな課題は、田村、名前を欄外に記入し、新しいページから書き出す。

### 練習方法

定期考査と授業中の課題を合わせて各学期、学年の成績をつけます。また、授業時の課題の成果を定期考査の点数に組み込むこともします。ファイル提出合格（クラス課題）も毎回定期考査に組み込むことがあります。

## 先輩の「学んだこと」像文

国語は、ここまで生きる上で役に立つとは思わなかつた。最初はせいぜい話して、漢字を覚え

学んだことは、情報の共有化の大切さです。中学の時は、わからないことは調べたりもせずわからぬままにしていました。だからテストでも全然できなかつたり、日常生活でも自分だけ知らないことがあつたりしました。逆に自分が知つていることも、他の人に教えるのが面倒で教えなかつたりもしました。高校に入つても一年の時は他の人の意見を聞かないで自分の意見のみを主張していました。二年になつて現代文の授業が始まり片桐先生の授業になつてから、今までの国語の授業とやり方ががらりと変わりました。まず課題も周りの人と話してやつてもいいし、班でやる課題が非常に多くなりました。最初はなんだこれと思つていました。課題の内容も意味がわからなくてとても一人ではやつていけない状況でした。しかし何回かするうちに、班のグループの人たちが自分の意見を言つてやり方がわかつたり、自分の意見を言って班の他の人の手助けをすることができるようになりました。こういうことがおきて片桐先生の授業は意見を出し合つて問題を解決していくことを学ぶんだとわかりました。情報の共有化の大切さを知らなければ、今までと同じで人の意見を聞くかず自分のことだけを主張して、いろいろな考え方を知ることができない状態になつていました。

国語は、ここまで生きる上で役に立つとは思  
わなかつた。最初はせいぜい話して、漢字を覚え  
ればそれで事足りるものだと思っていた。しかし  
今年度の国語は違つた。文章の中から本当に作者  
が伝えたいことを見つけ出せるようになつたし、  
逆に受け取る相手に伝わりやすい文章を書けるよ  
うになつた。中でも一番役立つのは他人と協力す  
ることだ。小学校、中学校、と何度も何度も積み  
重ねて聞かされてきたことだが、高校に入つて國  
語の授業を受けてから初めて思い知らされた。自  
分だけが課題をクリアしても周りの人のことによ  
りで気を回さないと課題を完全に終わらせたとは言  
わない。またクラスの全員がそのような気持ちに  
ならないとクラスの隅々まで課題をクリアしない  
といけないという空気にならず、結局は誰か一人  
二人が残つてしまふ。社会に出てからは他人と協  
力することが最も重要だ。このことに高校生の段  
階で気付けて良かった。人はいろいろな性格があ  
るから、協力が苦手な人もいる。そのような人に  
は自分から積極的に空気を作つてあげることも大  
切だ。また必ずしも他人と協力する課題ばかりで  
はない。時には一人で静かに課題に取り組むこと  
もある。その人には周りの人も静かにして課題に  
集中できる空気を作ることが重要だ。これもまた  
一種の協力で、全員が課題を終わらせることがで  
きる。このように、協力して空気を作り出すこと  
は生きる上で役に立つ。

普段の授業で使った辞書を日常生活の家庭学習で使うようになった。中学三年生の時はわからぬ漢字やその漢字の意味、語句の使い方があつた場合はそのままわからないまま使つたり、平仮名で書いたりしていったが、この授業を何回もこなすことに辞典を使う習慣を付けることができた。この学校に入つて国語の授業を受けて最初の頃はひらがなが乱雑でチエックされたり、常用漢字を平仮名で書いてチエックされて結局再提出ばかりしていたがこの課題を越えるために辞典調べでこなすようになった。雑な字を書いてしまう習慣が、辞典を調べることによつて常用漢字や日常生活では使わないような語句も覚えて有効に使えるようになつた。次に学んだことは授業を受ける態度である。この学校に入るまでは授業に持参するものを忘れたり、授業中は寝ていたりとかなり問題的な行動をとつていたが今年の国語の授業は厳しく一度の忘れ物や良くない態度だけで自分の点数がマイナスになつてしまふことが多數あり、最初は受けることだけで精一杯だつた。だからテストの点数も最初の時はマイナス10点近くも落とされてショックが大きく感じられた。しかし、辞典の内容と同じように授業を乗り越えることに忘れ物は減つていき、国語の授業だけではなく他の教科も寝ることなく受けられるようになれた。最初は逃げたくなるぐらい嫌な授業でも我慢してこなすことで自分には様々なことがプラスされ成長していくんだと思った。そしてもう一つは、品限の気持ちを考えることである。過去の自分は常に己のことしか考えることができずいつも一人で行動をとつてしまつっていた。

情報を共有すれば、自分のわからないことや他の考え方があつたことを知ることができ、周りとの交流もできるようになります。情報の共有化は非常にいいことだとわかりました。

一番初めクラス全員の机を使って輪を作る時、すぐにできずものすごく遅い記録を出してしまい初日から先生に怒られていて他の人と協力できないのか、などと言われました。一年ほど経ち今ならクラスの人や他の人たちとも協力できるようになりました、また机で輪を作るようなことがあっても前のような悪い記録は出ません。先生の授業では良くクラス全員ができれば何点プラスするということが多くあり、クラス全員が合格したくてみんなで教え合ったりして協力していくつもりでしたが、クラス全員が合格できたことはありませんでした。このことを考えると、まだ他人に教えるという部分ではまだ協力することができなかつたのです。三つ目は、一人では何もできないということを学びました。一人では何をすればいいのかよくわからず、また他人が何をしているのかもわかりませ

一点目は字をきれいに書くことだ。今まで、自分がわからぬといつてはいたし、提出物も、とりあえず出せば良かつた。だが自分がわかつて、読む人に伝わらなければ何の意味もないということに気づいた。

二点目は、漢字を使うということだ。どんなに字をきれいに書いても、平仮名ばかりではとても読みづらいし、社会に出たときに漢字が書けないようでは、まわりから浮いてしまうし、恥ずかしい思いをしてしまう。字をきれいに書き、漢字を使うことが大事なことだ。

三点目は、まわりの人に迷惑をかけないことだ。先生の授業には、クラス全員が成功して、何点かもらえる課題や、グループ全員が成功しなければいけない課題がある。その時にまわりの人人がやる気を出して頑張つても、一人でも、出さない人がいたら、それだけで失敗になつてしまふ。最初は「なんか厳しいルールだな」、「あいつとは関係ないから、俺だけ点数をもらえばいい」と思つていたが、それは間違つているし、社会に出れば全部連帯責任なんだから、今、しっかりとやつておかなければいけないことだ。人の責任をとれるようになづれば初めて一人前になる。その前に人に迷惑をかけないようにしておかなければいけない。

四点目は、問題をしつかり読むということだ。テストの時に問題をあまり読まず、できる問題を間違つてしまうことがある。「これは、学校だから、何とかなつているが、会社でこんなことになつてしまえば大変なことになつてしまふ。重要な書類を読むときにミスをしてしまえばとんでもないことになつてしまふ。まずしつかり文章を読んでから始めることが大切だ。

五点目は、再提出だ。自分はよく再提出になつてしまい、それで出すのをやめてしまつが、先生の授業ではその悪いところもなおすことができた。

書けるようになりました。まだ完全とはいきませんが少しずつ僕の文章力は上がっています。文章が書けるようになると、今度は人に見せて見せなくてはならないと思つています。そこで現代文ならではの「ボールペン」です。僕はボールペンが苦手であまり使つたことがありませんでした。字はすぐに消せないし大変だからです。でも将来どこかの会社と何かするときは全てボールペンでやるので、今のうちにボールペンで書くとすることはとても大事なことです。そうすると自分がきれいな字で書くという意識が出てきて、相手にも分かりやすく、自分も分かりやすい文章が書けるようになります。僕は今この作文を書いて、漢字練習して書けるようになつたら本を読み、本を読みながら文章を書いて、文章を書いたら文章を書いて繋がつているのだと思ついました。漢字練習して書けるようになつたら、本を読み、本を読みやすくようにする。この一つ一つが僕にとってとても大事なものだと思つています。これが欠けてもいけません。この作文に書いたら、章全てが僕にとって「生きる上で役に立つ」と思つています。

提出日を守ることと提出することの責任の重さだ。中学の頃はノートを出さないと先生が「今重日中に出しなさい」と声をかけてくれ、それまでには出さなくていいと考えていた。でも、高校は出さないと容赦なく点を引かれてしまい、下手をするとクラスみんなの点まで引かれるということもあり、提出するということは責任もあるということを学んだ。また、クラス全員が提出しないといけない課題は、何日までに出さなければいけない、合格しなければいけないという、プレッシャーもあり、すごく真剣に取り組み、提出することができた。

常用漢字の練習についてです。僕は小さい頃から全く漢字を勉強してきませんでした。漢字練習もだらだらただノートに書くだけでした。しかし現代文の授業で常用漢字を書くようになり少しずつではあります、が漢字を書くようになりました。他のノートにも漢字が多くなつてきたのもよく分かるようになりました。漢字の話にも関係していくのですが、現代文の授業の始めの「読書」もそしてしまいました。今までマンガ本しか読んだことのない僕が、本を楽しく読もうというのは「生きる上で役に立つ」ことです。今度は文章を読み取る力がつくと文章を「書く力」も付いてきます。本を読み、ある程度の構造が分かること、あとは基本的なことが分かれれば作文が

